

## 南信州定住自立圏共生ビジョン改訂について（概要）

企画部企画課

平成21年から取り組んでまいりました南信州定住自立圏については、これまで5年ごとに3期にわたり共生ビジョンの改訂を行いました。この度、現計画期間（平成31年度～令和5年度）が終了したことに伴い、新たな共生ビジョンの改訂を行いました。

なお、共生ビジョンの改訂は、中心市（飯田市）の役割となっています。

## 1 計画期間

令和6年度から令和10年度までの5年間 ただし、毎年度所要の変更を行う。

## 2 構成

(1) 定住自立圏及び市町村の名称

(2) 圏域の概況

ア 沿革

イ 近況

(3) 定住自立圏の将来像

ア 将来の目指す姿

われわれは、地方圏を取巻く厳しい環境への準備と、リニアがもたらすこれまでに経験したことのない劇的な変化に対し適切に対応していくとともに、当圏域が持続可能な圏域としてあり続けるために、先人から受け継ぐ「山の暮らし」「里の暮らし」「街の暮らし」が渾然一体となって織りなす多様性あふれる魅力を大切に守り、次の世代へと確実に引き継いでいく。

この地に若者達が定着し、多彩な「人財」が将来にわたり往来する、活力にあふれ美しく、心が響き合い、安心して暮らすことができる南信州定住自立圏の構築を一層推進していく。

南信州圏域における広域連合による地域経営と定住自立圏による環境整備は補完の関係にあり、この両輪によって一体的な地域づくりを推進していく。このことは、広域連合の掲げる地域像「小さな世界都市」、「多機能高付加価値都市圏」の実現へつなげていくものである。

イ 圏域人口の将来展望

ウ 市町村の役割分担、取組

市町村は、住民が日常生活文化圏を共有していることを踏まえ、圏域を一体的に経営していく必要性を再認識する。そして、互いの独自性を尊重しながら連携を一層強化する中で、共通課題の解決と圏域活力の再興・創造に向けて対等の立場で協働し、着実に実行することで、地域政府としての責務を果たしていく。

具体的には、中心市・近隣市町村相互に役割分担し、定住のための機能を高め、豊かで多様なライフスタイルを提案できる魅力ある圏域を創り上げ、内外の人々を惹きつける地として、地方生活圏の新しい姿を創出していく。

中心市である飯田市は、圏域全体を視野に入れ、都市機能の整備・提供に努め、圏域全体の暮らしを支え、魅力を向上させていく。

近隣13町村は、生活機能の確保・充実や交流機能の整備・提供に努めるとともに、人々にとって欠くことの出来ない自然環境の保全や文化の向上・保存継承を図るなど、当地域が有する「多様性」を守り磨いていく。

(4) 平成31年～令和5年度の取組の状況

ア 定住自立圏形成協定による取組の内容

イ 成果指標（KPI）達成状況

ウ ヒアリングによる成果と課題の把握

エ 今後の取組の方向性

平成21年7月に南信州定住自立圏形成協定を締結して以来、新たな協定事項も加えながら、共生ビジョンに基づき各分野別の事業に取り組んできた。その評価として確認したKPI実績及び

ヒアリング結果によれば、医療・福祉分野をはじめとする生活機能の維持及び市町村間の連携の強化が図られた。一方で、少子高齢化に伴う担い手不足などの地域課題が深刻化している面もあり、デジタル技術の活用とともに外部人材を活用するなどしながら対策を検討していく必要がある。

また、これからの定住自立圏を推進していく上では、定住人口の確保に向けた移住の促進及び交流人口や関係人口の増加を目指す取組がより一層重要度を増してくる。それぞれの市町村の魅力を磨き上げるとともに、圏域が一体となり、役割を分担しながら人を呼び込むための働きかけをしていく必要がある。

- (5) 定住自立圏共生ビジョンの期間
- (6) 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組
- (7) 共生ビジョン事業一覧

### 3 共生ビジョンの振り返り

共生ビジョンの改訂に当たり、成果指標の達成状況の確認及び構成町村・各関係機関へのヒアリング等による振り返りを実施

- (1) 成果指標（KPI）達成状況
  - ・生活機能の強化に係る政策分野のうち、医療・福祉、産業振興及び環境については、一部目標に届かない項目もあったが、おおむね目標値に近づくことができた。教育及び文化（図書館ネットワークシステム）については目標値を大きく上回ることができた。
  - ・結びつきやネットワークの強化に係る政策分野のうち、公共交通ネットワーク、圏域内外の住民との交流及び移住の促進に関しては、目標値を大きく上回ることができた取組がある一方、新型コロナウイルス感染症等の影響により目標に届かなかった取組も多かった。
- (2) ヒアリングによる振り返り
  - ・医療、福祉分野を中心に圏域全体で生活に必要な機能の維持は図られているが、事業者等の努力だけでは公共サービスの提供が困難になってきている分野がある。
  - ・人口について、高齢化に伴う自然減が進行しており、エッセンシャルワーカーや産業の担い手の確保などで課題となっている。また、移住者が増えている地域もあるが、全体として人口減少への歯止めはかかっている状況にある。
  - ・社会増を目指す取組として、「南信州くらし応援隊」での移住相談会など広域での取組を開始し、各自治体においてもつながり（関係）人口の創出につながる交流拠点の整備等に積極的に取り組んでいる。
  - ・地域の課題解決や圏域内外の交流及び移住定住の促進をはじめとする定住自立圏の各取組を効果的に推進していくためには、外部人材や専門家等との連携を深め、デジタル技術を含めその知見を活用することも必要である。

### 4 共生ビジョンの改訂

改訂時点では、新たな追加協定も行われなかったことから、これまでの取り組み実績及び方向性を確認し、前ビジョンをベースとしながら必要個所の見直しを実施

- (1) 方向性
  - ・生活機能の強化については、引き続き維持強化を図っていく。
  - ・結びつきやネットワークの強化については、交流の拠点づくり及び移住定住の促進に向け、外部人材の活用等も行いつつ、より市町村の連携を深める中で圏域一体となって取組を進める。
- (2) 具体的な取り組み
  - ・具体的取り組みを記載した部分では事業費等を令和 10 年度までの見込みに更新し、積算根拠となる各市町村の個別事業も前回同様に掲載した。
- (3) 成果指標
  - ・各町村及び庁内担当課に依頼し設定、更新を行った。
- (4) 今後のスケジュール
  - ・7月 広域連合会議にて報告した後、国・県へ報告